

日時 令和6年9月17日（火）

午後7～9時

場所 松本市役所3階 第1応接室

～ 議事概要 ～

■会議事項

1 ビジョンについて

ア ビジョン骨子作成の報告

- 市役所内、議会、建設環境委員協議会に対してビジョン骨子案を提示し報告。
- 議員から、テーマ3のみ市民ではなく来訪者が主体となっているため見直しが必要ではないかとの意見があったが、これに対しては、テーマ3のタイトルの「来訪者」を「来訪者にも」に変更することで、市民と来訪者の両方が対象であることを明確にすることができる。観光都市としての視点も反映し、松本市の森林が市民・来訪者両方にとって魅力的であるべき存在であることを示せると良い。
- 松本市の森林が現在も多くの恩恵を与えていることを再認識し、今後もその状態を維持することが重要である点を示すのが大切である。しかし一方で、松枯れ問題などの課題もありその対策も必要である。
- 森林の循環について、林野庁の考え方が反映された針葉樹林施業主体のイメージ図が使われているが、松本市のビジョンでは、市民が親しむ広葉樹の森林も重要であり、木材生産だけに焦点を当てるのではなく、より多様な利用方法を取り入れるべきである。

イ ビジョン（案）の内容協議

- 5つのテーマごとの施策について、どこで誰が実施するのかを整理すると、ビジョンの理解が進む。奥山エリア、里山エリア、市街地エリアに分けて、テーマに応じた施策を明確にすべき。
- 森林と人との関わりについて、ビジョンを読んだ後、市民がどのように行動を起こすかについて、具体的な道筋を示すことが効果的である。そのために、6章では組織としての推進体制だけでなく、市民一人ひとりの取組みについても触れられると良い。
- 森林税（特に森林環境譲与税）についてもビジョンに盛り込み、市民への周知を促していく。

ウ 今後のスケジュール

- ビジョン作成については、パブリックコメント前の残り1ヶ月で形にする必要がある。10月末までに意見を提出するようお願いしたい。
- 資料編は、イベントやフォーラムの開催概要とアンケート結果のボリュームが大きくなると想定。

2 まつフォレ#11イベント について

- イベント全体の進行役は三木委員長が担当し、「森の探検」の部分は小穴委員がガイド役を務める。
- 次の12回目のイベントでは、「6章の推進体制」を考えるためのキックオフイベントを開催することとし、具体的な内容について次回の運営委員会で検討することとする。

議事録要約

1 委員長あいさつ

(三木委員長)

今週末にはイベントも控えているためそのイベントの打合せと、それからビジョンをより良いものにしていくということで、今日はお願いしたい。

2 会議事項

(1) ビジョンについて

ア ビジョン骨子作成の報告

(三木委員長)

それでは会議事項に入っていきたい。最初に「ビジョンについて」ということで、「ア ビジョンの骨子作成の報告」を説明していただく。前回の運営委員会で我々が確認したものと比べて特に変更されたところ等があれば、重点的に説明してもらえればと思う。

(市)

※資料1の説明

(三木委員長)

資料1のこの骨子案は、市役所内の説明以外にどのような場合に使用するのか。ビジョン本編の概要版という位置付けにもなるのか。

(市)

市役所のほか、議会や建設環境委員協議会にも提示している。

(三木委員長)

あくまでも市役所や議会向けで、外には出さないということで良いか。

(市)

そのとおりである。ビジョンがどのような形のものになるのか庁議や議会等でこの骨子案を示し、最終的にはこの骨子案は外には出ない。この骨子案とは別にビジョン本編とその概要版を作成する予定で考えている。これはあくまでも骨子でどんなイメージで作って行くかということ伝えて、一応承認を得た。あまり最終的な成果物とかけ離れてしまうと良くないので、最初にこの骨子で内部関係者向けに、ビジョンはこういう構成でこんな形のものを作るということで承認を頂いたということである。

(三木委員長)

「③来訪者を迎える景観、自然を守り育てる」については、どういう表現にするのかということで前回の運営委員会でも議論になった。松本市は観光都市でもあるので、来訪者や松本市に移住するような人にも魅力ある森林は必要だろう。

(小山委員)

議員から出てきたご意見について、我々としては何らかの回答を出していかなければならない。その一つとして多分テーマ3があるのかと思う。テーマ1、2、4、5の主語が松本市民なのに対して、テーマ3だけ市民は関係ないのではないかという点が、多分ご指摘のポイントなのだろう。そうすると、我々の意図としては市民だけでなく来訪者にも視点を向けるということになると思うので、ここは「来訪者を」とせず「来訪者にも」とした方が良いのではないか。要は「来訪者にも〇〇な景観、自然を守り育てる」というふうにすれば、来訪者だけではなく我々市民も含まれることになる。

(環境アセスメントセンター)

テーマ3に紐付いている3つの施策を見た時に、「これは別に来訪者向けだけでなく市民も含まれる」というふうに思われたのではないかと想像する。先ほど小山委員が言われたことも踏まえて、観光色をどれだけ盛り込んでいくかという点もポイントになるかと思う。

(小山委員)

観光色の要素は是非入れておきたい。テーマ3の施策②に「市街地周辺の里山や市街地の森林の保全と利用のための整備」とあるが、例えば、市街地周辺であっても美しい緑を市民・来訪者ともに共有できるような施策は大切であろう。日常的に触れている市民にとってだけではなく、来訪者にとっても「松本の森っていいね!」と思ってもらえるかどうかは大切だと思う。

(環境アセスメントセンター)

テーマ4では、森林の多面的機能についてある程度盛り込んだつもりであるが、景観の機能については触れておらず、その代わりにテーマ3で補っているという構成にもなっている。

(三木委員長)

書きぶりはあると思うが、「来訪者にも」というような感じで市民は当然含まれているということが分かるような形にしたい。

(市)

また、こちらから議員の皆さんに説明をさせていただいたポイントとして、今ある森林の環境が50年後も100年後も継続して続いていくことが一番重要だという点である。これだけ自然環境的に恵まれた松本市があるのは、森林の恩恵を受けている点大きい。この恩恵を受けるのが50年先100年先も継続していくという点が重要であるということを、議員の皆さんにはお話しさせていただいた。

(小山委員)

そのキーワードは欲しい。今のお話を聞いて共感したのだが、今が悪いわけではなくて今も良いという点が、残念ながらこの資料の2ページ目からは読み取れない。たいいていビジョンで

は何か駄目なところがあって良い方向へもっていこうとするのだが、実は今も十分良い状態であるということ認識するというのは、意外と新しい視点かと思う。現状の森林の状態をきちんと維持しながらも、森林と人との距離が遠いので、そこをもっと良くしていこうという、そういうイメージを表現できればと思う。2 ページ目で気になったのは、この絵が極めて林野庁が出しそうなイメージあって森林の循環に重きが置かれすぎている。森林の循環も大切だが、松本市が置かれた状況を考えるならば、現状でも松本の森林は素晴らしいという点をもう少しこのイメージ図の中に表現できないだろうか。「今の森林は素晴らしいからこれを何とか維持していきましょう」というビジョンを私は知らない。

(三木委員長)

確かにこの森林の循環のイメージは、今までこの運営委員会で議論してきた方向性とは掛け離れている。

(市)

庁議に諮る中で、この森林の循環を中心に据えながら 5 つのテーマを掲げた方が良いという意見が強く、入れざるを得なかったという経緯がある。

(小山委員)

森林の循環自体が悪いのではなくて、今の状態が良いのでそれをずっと維持し繰り返して使っていきましょうという意味での循環のイメージがうまく伝わらなかったのではないだろうか。この森林の循環のイメージだと、一生懸命木を植えて育てていかないといけないというプレッシャーにも感じる。

(永原委員)

今の森林が良いかと言われたら、正直今の松本市は松枯れ被害が甚大で壊れている山が多くて、若干疑問がある。

(市)

松枯れについては、市民のアンケートでも大変多くの意見を頂いており、その対策についてはまさに伐って植えて育てるという循環が必要だと思っている。先ほど申し上げた「今の森林が良い」という意味は、今も十分ではないかもしれないが、森林からの恩恵をたくさん受けているということである。例えば、災害から守ってくる森林があって水の恵みも頂きながら、50 年 100 年先もやはり今と同じように恩恵を受けて生活ができるという、そういう意味での良い部分ということである。

(小穴委員)

この森林の循環のイメージ図からは、材木を積んだトラックが描かれていたりもして、木材生産面からの森林の循環を想起してしまう。この松本市のビジョンで扱うイメージとは違うと思うので、違和感がある。

(環境アセスメントセンター)

この森林の循環の考え方は、資料 2 のビジョン案の「5. 将来像をふまえた松本市の未来の森林とは」の部分に落としこんでいくことになるのかと思う。資料 1 の骨子案で示された森林施業や木材生産を主体とした森林の循環のイメージは、奥山エリアや市街地エリアではなく里山エリアに絞られてくると考えている。この里山エリアについて、松本市民なり関係する人たちがどう活用していきたいのかによって、森林の活用の方向性は森林施業や木材生産だけではなく、他の活用方法もあるという理解でいる。そうであれば、森林施業や木材生産を想起させるこのイメージ図一辺倒にするのは、このビジョンで目指す方向性とは少し違うのだろう。例えば、松本市民が里山をふれあいの場として利用したいと思っている場合は、伐って使って植えるという森林の循環のイメージとは異なるだろう。

(市)

資料 2 のビジョン案の 38 ページ「未来の森林の姿」に、森林の循環に関するイメージが描かれているが、これがまさに庁議や議会から要望のあった森林の循環のイメージになる。ここに盛り込まれているという点を次回の庁議や議会では説明したい。

(三木委員長)

資料 1 の骨子案のイメージ図や資料 2 のビジョン案 38 ページのイメージ図は、林野庁による森林の循環を前提としており、基本的に針葉樹を対象とした林業が主体である。一方で松本市の里山は、もちろんカラマツを植えることもあるが、市民が親しめる森林ということ考えると、当然広葉樹を対象とした林業になるだろう。そのため、林野庁による森林の循環を前提としたイメージ図をそのままこのビジョンに持ってくるというのは難しいのかもしれない。松本での森林の循環が、もちろんカラマツやヒノキ等の林業を行って循環させるという側面もあるだろうが、広葉樹林で薪を採取するような循環もあるかもしれない。木材だけではなく何か色々なものを作ったり、森林の中に入って親しむというのも循環ではある。木材を取ることだけが循環ではないため、そのあたりがこのイメージ図だけだとどうしても表現しきれない。

イ ビジョン（案）の内容協議

(環境アセスメントセンター)

※資料 2 の説明

(三木委員長)

前回の運営委員会で出された意見を反映していただき、完成形に大分近づいてきているのではないと思う。何かご意見はあるか。

(小山委員)

「4. 将来像を達成するための基本施策」で 5 つのテーマごとに施策が列記されている。その施策をどこでやるのが「5. 将来像をふまえた松本市の未来の森林とは」で、誰がやるのが

「6. 将来像の達成のための推進体制」というふうに捉えると、整理しやすいのではないかと。5つのテーマごとの施策をどこで誰がやるのかということが整理できれば、自ずと「3. 森林と市民との関係の将来像」に繋がってくると考えられる。5章の奥山エリア・里山エリア・市街地エリアの区分けは標高700mと1500mを境界にして3つに区分してあるが、意外と現実のイメージに近く、収まりが良いと思った。奥山と市街地の両極端のエリアでは利用法がある程度固まってしまうと、奥山エリアでいえばテーマ3「来訪者を迎える景観、自然を守り育てる」が該当するだろうし、市街地でいえばテーマ1「市民と森林がふれあう機会をつくる」に焦点を当てれば良い。里山エリアでは、残りのテーマ2「地域の木材を市民のくらしにとり入れる」、テーマ4「市民のくらしを支える森を守る」、テーマ5「森を知って、森を育てる」を中心に具現化していくという整理にすると、すっきりするのではないかと。

(三木委員長)

他にはご意見ないかと。

(大田副委員長)

5ページに課題として松枯れのことが書かれているが、その仕組みについては「39 ページ参照」というふうには書き加えて頂けるとありがたい。

(環境アセスメントセンター)

承知した。

(渡辺委員)

私もまだ自分の中で答えは出ていないが、森林の循環について、木を伐って植えて育ててという点が大事ではなく、森林と人がどう関わっていくのか、人が生きてく中で自然とか水とか土とかと関わっていく中での循環を、松本市の状況に合わせて作れたらいいなと思っている。他に2点ほどある。ビジョン案の13ページのアンケートについて、何人に送って何人から回答が得られたのかという基本情報が欲しい。たしか市民と森林所有者と事業者に送っていると思うので、それぞれについてお願いしたい。2点目は定義の部分についてである。市民とは誰を指しているのか、森林とはどこを指しているのか。松本の森林というのは松本市だけではなく、松本平として安曇野や塩尻など広域としても繋がっているという点もビジョンの中に盛り込みたい。

(環境アセスメントセンター)

市民の定義については、2ページのところに小さく入れてあるが、もう少し見やすくなるよう修正させていただく。

(三木委員長)

森林の定義を松本平の森林という形で設定するのはこのビジョンでは難しいかもしれない。もちろん松本の森林というのは松本平の森林の一部でもあるし、松本市から新潟方面に流れて

いく川の流域の森林でもあるが、ビジョンの施策で松本市が取り組むことを書く際に、市域を越えて松本平の森林全体に何かできるわけではないので、書きぶりが難しい。もちろん松本市の森林が松本平一帯の森林の一部であって、松本市の森林を整備することが松本市以外の周りの人達のためにもなるということは、ひょっとしたらビジョンのどこかに書けるかもしれない。

(渡辺委員)

松本市の税金を使って松本市内の森林を良くしていくのが大前提ではあるが、松本市民だけでなく、例えば安曇野市民だけど通勤で松本市に通っている人だとか、もちろん学生もそうだし、こういった方々も巻き込みつつ松本市の森林をどうしていこうか考えるという点もビジョンに含められたら良いと思う。松本市内の森林だけが良くなれば良いということではなくて、「みんなで森林を考えていこうよ」くらいのやんわりとしたイメージで考えている。

(小山委員)

おそらく渡辺委員が言われているのは、このビジョンは誰のために存在しているのかはっきりさせたいということなのかと思う。それが多分このビジョンの「市民とは」の定義の部分に収斂されることになると思うのだが、「松本市の森林ビジョンが誰のためにあるんだろうね」と言われた時に、松本の森林を愛する全ての皆様に向けたメッセージという書きぶりなのかもしれない。

(渡辺委員)

仰るとおりである。

(小山委員)

ビジョンで対象とする市民というのは、松本の森林に関わる様々な人達を指すということであろうが、そういう書きぶりよりは、多分このビジョンを誰に使ってほしいのかということなのかと、先ほど渡辺委員の話を聞いていて思った。

(三木委員長)

私は例えば6章の推進体制の中で、近隣の市町村や市民の取り組み等との繋がりを書いてもいいのかと思う。

(環境アセスメントセンター)

テーマ5「森を知って、森を育てる」の部分でも、松本市の周辺も含めて関係しそうな外部地域との交流といった要素も取り入れていくと、夢が広がる感じがする。

(小山委員)

松本市以外の要素が含まれる取組みは行政の施策としては難しいだろうが、市民主体の取組みでは、松本市の周辺の皆さんや地域を巻き込んで、ネットワークを形成しながら森林を良くしていきましょうというふうにすると、良いのかもしれない。

(渡辺委員)

最後 3 点目として、このビジョンを読んだ後に、市民がアクションを起こすにはどうしたらいいのか、何か具体的に道筋が示されているとより効果的にビジョンが機能するのではないだろうか。ビジョン作って終わりではなく、ビジョンを作った後に読んだ市民が是非行動してほしい。そのためには、どんな声掛けや投げ掛けをしたらいいのか、その点をうまく伝えられたら良いと思う。

(小山委員)

4 章の基本施策の部分で、現状では組織レベルでの取組みが前提となっているが、市民一人ひとりのレベルでどういったことができるかを取り上げてみてはどうだろうか。一人ひとりのレベルで出来ないことは、6 章にある推進体制に則って組織で取り組んでいくという構成が分かりやすいと思う。

(渡辺委員)

4 章ではなく 6 章に入れてはどうだろうか。

(三木委員長)

6 章に個人の取組みも含めるのであれば、今のところ組織での取組みを前提に付けられている 6 章のタイトルは、少し考え直した方が良いかもしれない。

(渡辺委員)

またビジョンの中で、森林税のことについて触れてはどうだろうか。せっかく先日の「広報まつもと」でも森林税についての記載があったので、森林税についてもっと市民に目を通してもらえる機会があればと思った次第である。

(市)

森林税については市長からも指示があり、森林環境譲与税についてビジョンに記載したいと考えている。

(小山委員)

場合によっては 4 章の基本施策の中で、それぞれの施策の財源となる森林環境譲与税やその他の税金のことも含めて記載してはどうだろうか。

ウ 今後のスケジュール

(三木委員長)

それでは次に、資料 3 の今後のスケジュールに入りたい。

(市)

※資料 3 の説明

(三木委員長)

残り 1 ヶ月が正念場ということになる。あとは基本的にはパブコメにかけて微調整をしていくという形になるため、その前の 10 月末までに意見は全部出していただかなければならない。また、このビジョン本編の後ろに資料編が付くのだと思うが、こういった形を想定されているか。

(環境アセスメントセンター)

今のところイベント・フォーラムの開催概要とアンケート結果が、ボリューム的には大きいと考えている。

(2) まつフォレ#11 イベント について

(三木委員長)

それでは最後に、今週末の 11 回目のイベントについて説明をお願いしたい。

(小山委員)

その前に、12 回目のイベントをどうするのか、現段階である程度固めておいた方が良いのではないか。

(市)

市としては、このビジョンが策定した後のお披露目のイベントが出来れば良いと思っている。

(小山委員)

私がやらなければいけないと思っているのは、お披露目はもちろんなのだが、6 章の推進体制を考えるためのキックオフをしておかないと組織が動いていかないと思う。少なくともキックオフの会議をやるということをこの場で決めておかなければならないだろう。次回の運営委員会では、具体的にこういった形でやるのか誰がやるのかという話をせざるを得ない。

(三木委員長)

では、改めて 11 回目のイベントについて説明願いたい。

(市)

※資料 4 の説明

(三木委員長)

イベントの進行は私の方でやらせていただく。

(市)

加えて「森の探検」ところを、子ども達相手のガイドに慣れておられる小穴委員にお願いすることはできないか。

(小穴委員)

全く問題ない。現場に行ったことはないが色々と小道具も用意していきたい。

(三木委員長)

それでは予定の時刻となったため、以上で第4回の運営委員会を終了としたい。